

無伴奏フルート現代作品の足跡

◇密度21.5 / E.ヴァレーズ ●DENSITY 21.5/Edgerd Varese[フランス-アメリカ/1883-1965/1936年作曲] ●

「私は自分の翼で飛ぶ」と言い、先鋭な作品を残したヴァレーズ。「密度21.5」は当時としてはかなり斬新な試みがされました。A.ニコレ氏がこの曲について、ドビュシーの「シリクス」に対して「アンチ・シリクス」と位置付けている様に、フルートがそれまでのイメージである柔らかく美しい牧歌的な楽器であるという連想から離れ、最高音Dの執拗なまでの要求や、騒音的音響、極端なディナーミクで書かれていることは大きな試みです。ゴーパールと同年代のフランス生まれのフルーティスト、ジョルジュ・パレルの、プラチナ製フルートの演奏会のために書かれ、曲名はプラチナ(白金)の1立方cmあたりの重さが約21.5gである事から選ばれました。

◇ソナタ・アパッシォナータ Op.140 / S.カーク=エラート ●SONATA (APPASSIONATA)/Sigfrid Karg-Elert[ドイツ/1877-1933/1917年作曲] ●

この曲は、「アパッシォナータ(熱情)」の題名どおり、一度耳にすると忘れられない個性を持っています。カーク=エラートは、オルガン奏者でもあり、生涯の大半をライプツィヒで過ごし、レーガーの後任としてライプツィヒ音楽院で作曲、理論を講じました。グリーグやライネッケにも師事したようです。作風は、印象主義から表現主義まで、多くを試みました。「ソナタ・アパッシォナータ」は表現主義的な作品で、人間の持つ感情が、次々と曲の中に盛り込まれています。ドイツの作品らしく構築性と内面性が機軸となり、抑制とパッションとのバランスを求められます。

◇組曲 Op.98 / W.ブルクハルト ●SUITE Op.98/ Willy Burkhard[スイス/1900-1955/1955年作曲] ●

ブルクハルトは、F.マルタンより10年後に生まれたスイスの作曲家でカーク=エラートに師事しました。この作品は最晩年の作品で、フルート奏者の娘ウルスラに捧げられています。第1楽章は半音階を軸として、瞑想的にアルペジオを繰り返します。第2楽章「対話」は、ゆっくりとした二声から俊敏な二声へ移り変わる構成。第3楽章は歌と伴奏形からなり、中間部はE音を基調とした急速なパッセージ。第4楽章ではアジタートの進行とコラールを思わせるフレーズを4回交替させて、曲の終わりへと導きます。個人的な宣言とも言えるこの組曲は、求心的で緊密な構成を持ち、時空を超え、J.S.バッハの無伴奏パルティータを彷彿とさせます。

◇巡り-イサム・ノグチの追憶に- / 武満徹 ●ITINERANT -IN MEMORY OF ISAMU NOGUCHI-/Toru Takemitsu[日本/1930-1996/1989年作曲] ●

武満徹は、小泉浩氏、野口龍氏、A.ニコレ氏に触発されて、多くのフルート作品を世に送り出してきました。「巡り」は、友人の彫刻家であるイサム・ノグチの死を悼んで書かれました。たえまなく旅を続けた彼の生涯を象徴するかの様に、フルートは多くの異なった場所を放浪するかのごとく、巡って行きます。苦しみのある響きがノグチへの深い思いを感じさせ、トレモロ奏法、重音、ホロートーンなどが、単なる特殊奏法としてではなく内面の発露として昇華しているのが見事です。

---- 休憩 ----

◇狂喜・乱舞 Op.31 / 滝沢昌之 ●kyoki-ranbu/M.Takizawa[日本/1970-/2018年作曲] ●

前半の狂気も、後半の乱舞も、緩急-緩急の構成によって、日本の能舞台に見られる様な超人間的な神や怨霊として表現される能面からインスピレーションを得て作りました。時に不規則に、時に規則的に、時にうなだれ、時に荒れ狂う感情を思いのまま音にしました。幽玄化された余情の美で、喜怒哀楽の感情を描きます。

◇ピッコラ・セレナータ -オオルリの夢と踊り- Op.30 / 滝沢昌之 ●Piccola serenata -Oruri's dream and dance-/M.Takizawa[日本/1970-/2019年作曲] ●

昨年のリサイタルでも演奏したピッコロ無伴奏のセレナータですが、冒頭には鳥の囀りを採譜した短い導入部を加え、夢見のセレナータの後には鳥たちの踊りを変拍子に乗せて付け加えました。ここで言う鳥は、濃いブルーの背中と白いおなかの、美しい声で歌うオオルリです。途中ふざけて声を出したり足踏みしたりします。

◇セクエンツァ / L.ベリオ ●SEQUENZA/Luciano Berio[イタリア/1925- 2003/1958年作曲] ●

ベリオは、第2次大戦後の前衛音楽を代表する作曲家です。名手ガッゼローニのために書かれた「セクエンツァ I」は、その後、ハープ、女声、ピアノ、トロンボーン、ヴィオラ、オーボエ、打楽器、ヴァイオリンをソロ楽器としたセクエンツァシリーズの第1作に当たります。ここでベリオは始めて不確定性を導入し、譜面上に音高、強弱、ニュアンスは示すが、拍子や小節のない書法を作り出しました。イタリア人同士の会話が聞こえて来るようなインスピレーションで、新鮮さを失わない名曲です。

◇5つの呪文 / A.ジョリヴェ ●5 INCANTATIONS/Andre Jolivet[フランス/1905-1974/1936年作曲] ●

ジョリヴェはヴァレーズに学び、異国の民族音楽から得た生命力あふれる作品を多く残しました。「5つの呪文」は、太古の音楽の持っていた不可思議な生命力を回復した意欲作です。5曲あるそれぞれの表題は、1.交渉相手を迎えるために-そして会見が和解に達するように。2.生まれてくる子が男であるように。3.農夫の耕す田畑の収穫が豊かであるように。4.生命と天地の穏やかな合致のために。5.首長の死へ-その魂の庇護を得るために。という標題が付いています。執拗に繰り返される呪文は独特のリズムで書かれていて、フルートはジョリヴェにとって、呪文や魔術の持つ根源的な宗教性の表現に相応しかったのかもしれませんが。



より良い楽器と安心との出会い！
応援します。若きアーティスト達！

アクセス ●地下鉄 赤坂駅3番出口より150m
●西鉄バス 法務局前より150m
福岡都市高速 天神北ランプ

ヤフオクドーム
法務局前
中央郵便局
地下鉄赤坂駅
中央区保福
PARCO
高鉄グランド
福岡第一
福岡第二
福岡第三
福岡第四
福岡第五
福岡第六
福岡第七
福岡第八
福岡第九
福岡第十
福岡第十一
福岡第十二
福岡第十三
福岡第十四
福岡第十五
福岡第十六
福岡第十七
福岡第十八
福岡第十九
福岡第二十

音楽といつも素敵な関係でいたい

クレモナ楽器

〒810-0041 福岡市中央区大名2丁目10-24
営業時間 / 10:00~19:00(日・祭日10:00~18:00)
定休日 / 水曜日 FAX 092-761-8382
☎ 092-713-5303 (代)
e-mail cremona@mx21.tiki.ne.jp
http://www.cremona-gakki.com